

平成23年政事業レビューシート

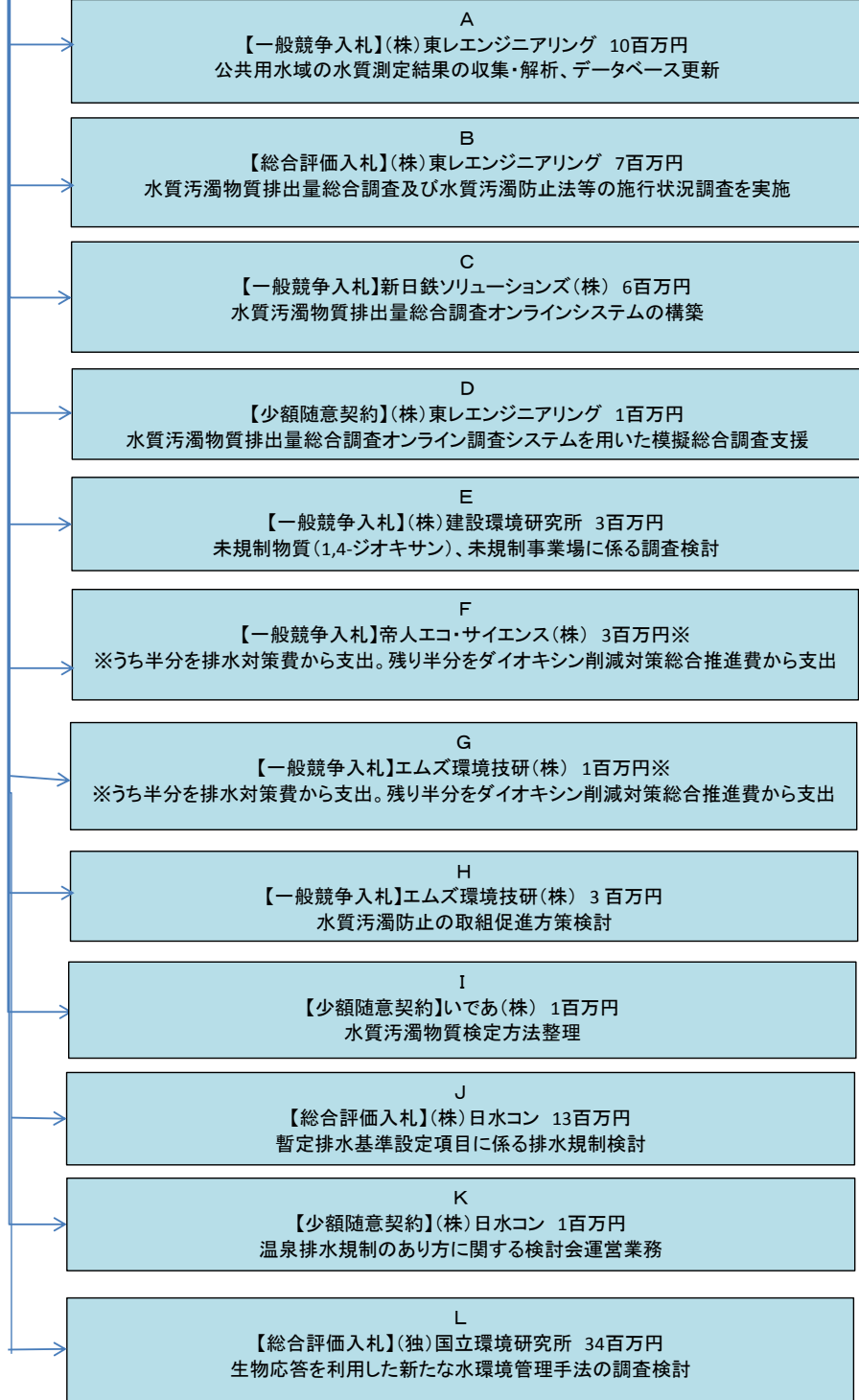
(環境省)

事業名	排水対策推進費	担当部署	水・大気環境局			作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度	担当課室	水環境課			水環境課長 吉田 延雄	
会計区分	一般会計	施策名	3-3 水環境の保全(海洋環境の保全を含む)				
根拠法令(具体的な条項も記載)	水質汚濁防止法第2条、第3条、第15条	関係する計画、通知等	—				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	工場及び事業場から公共用水域に排出される水の排出を適切に規制するために必要な調査・検討を行い、人の健康の保護や生活環境を保全することを目的とする。						
事業概要(5行程度以内。別添可)	水質汚濁防止施策の執行状況やその効果を把握するための調査(公共用水域における水質環境基準の達成状況等)を行い、国民、行政機関に対して情報の提供を行う。また、現在排水規制の対象となっていない項目等への規制の必要性を検討するための排水実態等の調査や暫定排水基準の撤廃・強化に向けた排水処理技術の開発・普及に取り組むとともに、生物応答を用いた新たな排水管理の方策について調査する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額(単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	96	111	106	97	83
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	96	111	106	97	83
	執行額	78	94	80			
執行率(%)	81.3%	84.7%	75.5%				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	公共用水域における環境基準		成果実績	-	-	-	100
			達成度	%	健康項目(99.0%) BOD・COD(87.4%)	健康項目(99.1%) BOD・COD(87.6%)	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	常時監視地点数、本事業により調査・検討した知見等により行った排水基準等の見直し等		活動実績(当初見込み)	健康項目(5,460地点) 生活環境項目(7,094地点)	健康項目(5,440地点) 生活環境項目(7,079地点)	ほう素等の暫定排水基準の見直し(暫定排水基準適用業種数:21業種→15業種)	—
単位当たりコスト	- (円/)		算出根拠	本事業は、環境基準の達成・維持を図るため、排水基準等の見直しを行うことを目的とした調査・検討を行うものであり、単位当たりのコストを算出することは不可能。			
平成23-24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	環境保全調査費	97	83	人件費や検討会開催数を削減することにより要求額を削減。			
	計	97	83				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、用途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○水質汚濁物質排出量総合調査については、平成22年度に政府共通システムを利用する形でオンラインシステムを構築し、調査実施経費の削減に努めているが、運用において円滑にシステムを利用した調査が実施されるようにする必要がある。</p> <p>○公共サービス改革法対象事業については、官民競争入札等監視委員会等の議論を踏まえて事業の効率化とサービスの向上を図っていく必要がある。</p> <p>○今後も引き続き、競争性の高い調達に努めるとともに、民間の知見と技術を活用しつつ、予算の効率的、効果的な執行に努めていく必要がある。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>継続的に予算措置されている事業であり、かつ過去数年の予算額もあまり変動がないことから、今一度中身を精査し、より効率的な執行と予算規模の削減に努めること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>人件費や旅費、検討会開催数を削減することにより要求額を削減。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

環境省
80百万円
事業の企画・立案



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A. (株)東レエンジニアリング			G. エムズ環境技研(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水質環境情報関連業務	10	雑役務費	ダイオキシン類排出実態調査	1
計		10	計		1
B. (株)東レエンジニアリング			H. エムズ環境技研(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水質汚濁物質排出量総合調査及び水質汚濁防止法等施行状況調査	7	雑役務費	水質汚濁防止の取組促進方策検討調査	3
計		7	計		3
C. 新日鉄ソリューションズ(株)			I. いであ(株)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水質汚濁物質排出量総合調査オンラインシステム調査システム設計開発	6	雑役務費	水質汚濁物質検定方法整理業務	1
計		6	計		1
D. (株)東レエンジニアリング			J. (株)日水コン		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水質汚濁物質排出量総合調査オンライン調査システムを用いた模擬総合調査支援	1	雑役務費	暫定排水基準設定項目に係る排水規制検討調査	13
計		1	計		13
E. (株)建設環境研究所			K. (株)日水コン		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	排水対策検討調査	3	雑役務費	温泉排水規制のあり方に関する検討会運営業務	1
計		3	計		1
F. 帝人エコサイエンス(株)			L. (独)国立環境研究所		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	雨水排水等のダイオキシン類調査	3	雑役務費	生物応答を利用した水環境管理手法検討調査	34
計		3	計		34

支出先上位10者リスト

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
A.					
1	東レエンジニアリング(株)	水質環境情報関連業務	10	2	非公表
B					
1	東レエンジニアリング(株)	水質汚濁物質排出量総合調査及び水質汚濁防止法等施行状況調査	7	2	94.0%
C					
※平成21年度契約の国庫債務負担行為					
1	新日鉄ソリューションズ(株)	水質汚濁物質排出量総合調査オンラインシステム調査システム設計開発業務	6	3	非公表
D					
2	東レエンジニアリング(株)	水質汚濁物質排出量総合調査オンライン調査システムを用いた模擬総合調査支援業務	1	少額随契	-
E					
1	(株)建設環境研究所	排水対策検討調査	3	3	非公表
F					
1	帝人エコ・サイエンス(株)	雨水排水等のダイオキシン類調査	3	3	非公表
G					
2	エムズ環境技研(株)	ダイオキシン類排出実態調査	1	5	非公表
H					
1	エムズ環境技研(株)	水質汚濁防止の取組促進方策検討調査	3	4	非公表
I					
2	いであ(株)	水質汚濁物質検定方法整理業務	1	少額随契	-
J					
1	(株)日水コン	暫定排水基準設定項目に係る排水規制検討調査	13	1	非公表
K					
2	(株)日水コン	温泉排水規制のあり方に関する検討会運営業務	1	少額随契	-
L					
1	(独)国立環境研究所	生物応答を利用した新たな水環境管理手法の調査検討	34	1	非公表